

酒列磯崎神社（ひたちなか市）

さかつらいそさきじんじゃ

ここは阿字ヶ浦の浜辺で、酒列磯前神社の所在する海に突き出た半島を見たところ

[video](#)



これは酒列磯崎神社の一の鳥居



左手に説明板が立っている



茨城県指定天然記念物



酒列磯前神社の樹叢

Natural Forest of Sakatsura-Isosaki Shrine

酒列磯前神社の創建は齊衡^{さいこう}3年(856年)であり、元禄15年(1702年)に現在地に遷宮された。

酒列磯前神社の境内林は、海洋による温暖な気候によって生育が促された暖帯性樹叢の一つと位置づけられる。参道両側には、樹齢300年をこえるヤブツバキやタブノキの古木が点在し、さらにオオバイボタ、スダジイ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が生育している。また、本殿脇から背後に広がる境内林は、スダジイ、タブノキなどの高木層と、ユズリハ、モチノキ、ヤブツバキ、シロダモなどの亜高木層～低木層で構成されている。

このような規模で保存されている例は希であり、この地域における本来の自然植生の姿をとどめた自然林として、学術的にも貴重であるといえる。

指定日 平成17年11月25日
設置者 ひたちなか市教育委員会

これが樹叢のトンネル



前方が二の鳥居



これが境内の案内図

さかつらいそさき 酒列磯前神社 境内御案内図

御神徳
病氣平癒
健康長寿
醸造発展
温泉の神

聖天安元年8月には官社に列せられ、更に10月には「酒列磯前薬師菩薩明神」の神号を賜りました。延喜の制では名神大社に明治18年4月には国幣中社に「大洗磯前神社」と共に列されました。

酒列磯前神社の由来

『文徳実録』によると、文徳天皇の斉街3年（856年・平安時代）に常陸国鹿島郡大洗磯前に御祭神大己貴命・少彦名命が御降臨になり、塩焼き（塩を精製する者）の一人に神がかりして、「我は大奈母知、少比古奈命なり。昔此の国を造り造りて、去りて東海に往きけり。今民を済わんが為、亦婦り来たれり」と託宣され、当社「酒列磯前神社」が創建され、また現在の東茨城郡大洗町には「大洗磯前神社」が祀られました。



- 1 本殿(ほんでん)**
酒列磯前神社のご祭神である少彦名命、大己貴命をお祀りしています。
- 2 拝殿(はいでん)**
参拝や御祈願をする社殿です。社殿内には色とりどりの天井画も見ることができます。
- 3 リスとぶどうの彫刻**
日光東照宮の『獅子舞』を制作した左基五郎(ひだりじんごろう)の作と伝わっている彫刻作品です。
- 4 酒列会館(さかつらいかいかん)**
御祈願の待合・結婚式・会議・研修会場などを多目的に利用されている会館です。
- 5 斎館(さいかん)**
- 6 鎮霊社(ちんれいしゃ)**
日露戦争からの戦没者をお祀りしています。
- 7 幸運の亀**
高麗当道者が神社に亀の石像を奉納されました。参拝して亀の石像に触ると御利益があると評判です。
- 8 齊昭公お腰かけ石**
水戸第九代藩主「徳川斉昭公」が、ヤンマツナという龍馬祭を見物する際に腰をかけたと言われる石です。
- 9 境内社(けいだいしゃ)**
様々な御利益の5つの神社。
- 10 狛犬(こまいぬ)**
昭和の名工飯塚良吉作。
- 11 海の見える鳥居**
朝霞を造むと左手に海岸を一望できる参道。美しく風を招く御岸線を楽しめます。
- 12 酒列磯前神社の樹叢**
樹齢300年をこえる梅やツツジがトノネモミに参道を覆い、花びら、巨樹を参道にご覧いただけます。冬には梅の花が咲き誇り、300年の参道をお楽しみいただけます。
- 13 御神輿(おみこし)**
半蔵町の御神輿です。三年に一度の半蔵三社祭にて雄々しく町内に出まわります。
- 14 神楽殿(かぐらでん)**
お神輿が安置されています。
- 15 神馬舎(しんめいしゃ)**
古くから馬は神様の乗り物とされてきました。
- 16 休憩所**
- 17 関東一の大灯籠跡地**
東日本大震災の被災時は倒壊してしまっただ関東一の大灯籠の跡。
- 18 比観亭跡(ひかんでいあと)**
太平洋が一望できる見晴台です。かつては水戸六代藩主「徳川治保公」がこの高台より景色を絶賛し、あずまや造りの日除け所を建て「比観亭」と名付けられました。
- 19 磯崎種吉翁銅像**
当社の再興に多大な尽力をされた方です。
- 20 手水舎(ちょうずや)**



左手には⑧齊昭公お腰かけ石があった



前方が酒列磯崎神社の社殿

 [video](#)



これは拝殿



向拝の唐破風を見たところ



右手から見たところ



拝殿の右側面



幣殿と本殿（右手）の右側面



本殿屋根の妻面をアップで見たところ



社殿を斜め後ろから見たところ/右手前が本殿



『文徳実録』によると、文徳天皇の斉衡3年（856年）12月29日に「酒列磯前神社」が創建され、また現在の東茨城郡大洗町には「大洗磯前神社」が祀られたと云う/延喜の制では名神大社に明治18年4月には国幣中社に「大洗磯前神社」と共に列されている



酒列磯前神社御由緒記

主祭神 少彦名命（惠美須さま）
配祀神 大名持命（大黒さま）

少彦名命は高皇産靈神の御子神にして医薬の術酒造の術の祖神また海上安全大漁万足の海の神なり。

大名持命は大國主命とも稱し五穀豊穰商賈繁昌の神にしてまた縁むすびの神なり、御二柱の神は共力を合はせ國土開拓民生の安定を築き

「神人和樂福を授けし神にして古より広く庶民に親しまれ敬愛された。

抑、御祭神は古事記日本書紀に記録明かたして、平安朝初期約三百年前

「文徳天皇実録」によれば天安元年（約三百年前）に「官社」となり、同年八月には

「藥師菩薩明神」の尊号、延喜の制には「明神大社」に列せらる。

天平文化を誇る奈良の平城宮との交流も盛なりし事等、史実に顕著にして

著名なるお社として全国的な尊崇とあつたり。

更に菅原道直公本居宣長平田篤胤等の国学者が学問の神として崇敬す。

本神社創祀の地現在地の西方海に塩かき台地鎮座されあり、建文二年（約九百年前）

源頼朝は神馬世三頭神領地寄進社殿修繕を行ひ、応永廿九年（約九百年前）

水戸城主初代江戸道房より次いで弘治元年（約三百年前）忠孝殿其他改造せり

天正八年（約四百年前）六代重道に至る數百年間、江戸氏が修繕に当りり。

元和二年（約三百年前）守護佐竹貞義神田寄進社殿修理せり、元禄十五年（約三百年前）

水戸藩主三代徳川光圀公の遺志を継承する三綱條公旧社地より現在地にきたため

境内の整備社殿大修築をなし、御遷宮奉安の儀を行ひ、

現社殿の建築は元禄時の彫刻と軒廻り部分を再使用、昭和九年国費により

改築せられたり、この時畏くも天皇陛下より金一封御下賜あせられたり、

明治十八年より終戦まで毎年三回の大祭に皇室國家より帑帛料が供進されたり、

洋上より昇る朝日に映ゆる神域約二万坪、参道本殿背後生殖せる暖帯林は

誠に人心を嚴肅の極に至りし自然林に指定されり、東南方磯つたに展開せる

白亜紀の岩石群は古より神聖視され清淨石と呼ばれてあり、

北方遠く連なる海辺は白砂青松にして絶景なり、東洋のよほり稱するに値せり、

萬葉時代より昭和初期まで旧制四十八村の各鎮守の神輿がそれの氏子により

「ヤンソコラサ」の掛声も勇ましく当神社神幸され祭典と同時に浜二里八丁と

疾駆せる勇壯嚴肅なる競馬の伝統御神事は往時を偲ぶものあり、

恰も本年は当神社が「國幣中社」に列格せし滿百年の意義深き年なり、

来る廿二世紀国際化時代、飛躍の秋、近隣一帯が北関東地域発展の

重要な拠点となる流通港常陸海辺公園等々、海と緑と人間との調和した

雄大にして豊な活力のある海洋文化都市建設構想を自指す輝かき曙光は

御祭神が國土開拓殖産の御神徳灼かき具現哉と一入感慨深きもの也。

さて、境内の左手（北側）にはこんな鳥居も立っていた



これは「海見える鳥居」で、そこから阿字ヶ浦の海を見たところ



こんな塩梅

 [video](#)



参考ホームページ

<https://sakatura.org/>

<https://iinia.tokyolovers.jp/ibaraki/hitachinaka/sakatura-isosakiinia>

<http://www.ibaraki-jiniacho.jp/ibaraki/kenhoku/iinia/04013.htm>

<https://konsoyage.hatenablog.com/entry/2019/11/23/214939>

<https://www.norichan.jp/iinia/renai/saketsuraisozaki.htm>

